

ネクスト・ファーマ・エンジニア養成コース シラバス

開催方法 (○で囲む)	1 ライブ 2 オンデマンド
※配信日時 (ライブの場合)	令和6年8月6日(火) 9:00 - 10:30
科目名	和漢1 富山のくすりと漢方薬 ～漢方が好きになる明日から使える基礎知識～
担当教員	富山大学附属病院薬剤部長・教授 加藤 敦 氏
授業の内容	大学病院を始め医療現場では以前と比べ明らかに漢方薬の処方件数は増加している。これは、生活習慣病や慢性疾患、あるいは高齢化に伴う種々の疾患の改善や抗がん剤投与時の副作用軽減や術後の早期回復を期待しての漢方薬の使用が西洋医学的観点からもエビデンスを伴った治療法として認知され始めたことに起因している。「食欲不振・上腹部膨満感に対する六君子湯の服用」や「便秘異常に対する大建中湯の投与」あるいは「骨髄抑制、血小板減少に対する十全大補湯の投与」など、特定の症状により、投与される漢方薬が自動的に決まる場合は、西洋医にとっても処方決定が容易であり、また、副作用等を軽減するための費用対効果の面でもメリットは多い。その一方で「薬物療法の適正化」の観点からすると、個人の体質や「証」に従わない、いわゆる病名診断に基づいた漢方薬の投与や、処方目的が不明確な漫然とした漢方薬の長期連用、重複投与は時として思わぬ重篤な副作用を起こす要因に繋がる。 本授業では、「漢方が好きになる明日から使える基礎知識」と題して、東洋医学と西洋医学の違いなど、初心者でも分かる基礎的な話を中心に漢方薬の方剤の成り立ちや有効性、副作用などチェックしておきたいポイントについて解説する予定である。
学生の到達目標	1. 東西医薬学における基本的概念・情報収集法の相違を説明できる。 2. 漢方薬の剤型について概説できる。 3. 治療薬としての東西薬物の特徴と相違点を概説できる。 4. 主な疾患に対する東西医学薬物療法の相違点について概説できる。 5. 漢方薬の副作用について概説できる。
キーワード	漢方薬、生薬、東洋医学、東西医学の融合
その他、受講上の注意事項や学習上の助言など	